

要 旨

簡体字使用日本語初級学習者対象の漢字表記指導

張 楠楠

日本語と中国語の共通の表記形態である漢字には似た点が多く、日本語の漢字の学習においては、中国人学習者は非漢字圏の学習者に比べて有利だと思われることが多い。そのため、漢字圏のための漢字教育はあまり重視されていないという状況にある。しかし、字形の違いに学習者が注意を払うことは多くなく、簡体字の使用が見られることが明らかになった。今後パソコンなどの使用により手書きは減っていくと予測されるが、日本企業への就職活動、大学の入学試験、メモする場面など手書きが求められる機会は決してなくなるらない。このような現状を踏まえて、早い段階から、漢字字形が同じではないことを学習者に指導して行くことが重要だろう。

本研究はまず字形の誤用例、誤用の原因例、指導例に関する先行研究を概観した。漢字指導に関しては日中字形の差異に注目するべきであると示唆するものが多いが、いずれもどのように簡体字を使用している中国人学習者に提示するかなどの具体的な方策は論じられていないという先行研究の成果と問題点をあげた。そして、日中の文字改革を概観した。日本と中国では、漢字の数の多さと複雑さに対応するために、戦後、それまで使用していた文字の使用を制限し、文字自体を簡略化するという方法で文字改革が実施された。こうして日中の異なった文字改革の結果がもたらされたが、小室（2019）は日本の漢字と中国の簡体字との対応関係と、字体間の差異について、旧日本語能力出題基準にある4級漢字名詞の漢字を五つのタイプに分け、その特徴を明らかにした。その上で、両字体間の異なりによって中国人学習者は日本字形の認識・産出に問題があるとした。そこで小室（2019）を踏まえて、本研究では中国人留学生が漢字の認識と書字のずれがあるかどうかを検証した。その結果、学習者が上級になっても日本語の書き間違いがまだ見られることが明らかになった。初級段階学習者に日中漢字の差異を教えることが示唆された。そして、本論日中漢字の比較から見えてくる字形の相違点を探った上で、中国人初級学習者にとって何が問題となりう

るかを特定し、彼らにとって産出の問題となりうる漢字を抽出し、それを学習目標漢字とした。

それらの漢字を指導するにあたって、四つの基本方針を立てた。まず1点目は指導対象漢字の選定である。2点目は指導対象漢字の指導順である。3点目は指導対象漢字で提供する情報である。4点目は漢字学習に対する注意喚起である。以上のことを踏まえ最後に授業の全体の構成と単元の基本的構成をあげて、日本語学校の授業に活用できる中国人学習者ための字形指導のシラバスを提案した。